

グラビア	地域を支える人 錦織大輔さん・島根県出雲市	1
発掘！地域の希望のタネ	〈津田エリア〉香川県さぬき市	5
給食のじかん	〈くじらのごまみそ和え〉宮城県石巻市	佐々木剛 6
書評	押田五郎 著『シリーズお仕事探検隊 ごみ清掃のお仕事』	菅原敏夫 8
焦点	結局誰が汗をかくのか？ 「人・農地プラン」 実質化をめぐる課題—新潟県の事例から	伊藤亮司 10

特集 コロナ禍の祭りとコミュニティ

	コロナ禍における都市祭礼のレジリエンス —長浜曳山祭の再開を事例として	武田俊輔 20
	盆踊りとコミュニティ —多様な人びとを繋ぐ空間とその可能性	大石 始 28
インタビュー	「第二のふるさと」を守り続ける —横浜市青葉区 奈良北団地の夏祭り	内田清高+ 田中有美 37
	「日本三大ばやし」の伝統をつなぐ —秋田県鹿角市の花輪ばやし	高瀬幸広 45
	祭りを支える職人を支える —西条まつり伝統工芸継承プロジェクト	石水睦津美 50
	祖国ミャンマーに支援を届ける —東京ダジャン祭り 2022	キン・ゼッヤーミン 56

自治研活動レポート	第3回自治研UNDER 35 全国集会 in 弘前	黒田麻美 63
	クマ捕り名人の「親方」は二八歳!!—青森県本部	赤平泰衛 66
連載	静岡自治研だもんで！●歴史・文化・自然が調和し、 見処・遊び処がぎゅっと詰まったまち 掛川市	横山 晃 68
	静岡自治研集会●分科会座長メッセージ	
第6分科会	災害に強いまちづくり	奥田龍弥
第7分科会	まちおこし	千葉 猛 榎田博之
第8分科会	自治体DX最前線！	村野祐輔 70
第9分科会	SDGs×生活×自治研	音羽智樹 本田恵美子
特別分科会	今、必要とされる公共サービスと自治 自治体の雑誌案内	福井 淳 75
	次号予告・編集部から	76



『シリーズお仕事探検隊
ごみ清掃のお仕事』
解放出版社 一九八〇年

押田五郎 著

清掃という仕事

本書を読んでいる間にも、大阪の就職情報サイトが「底辺の仕事ランキング」という、差別的な記事を配信し、批判された。その中には「ゴミ」収集スタッフと書かれていた。「清掃」スタッフとは別に。差別はあからさまに、なおかつ巧妙になっている。



本書は、東京都清掃局世田谷清掃事務所を皮切りに、四四年間収集作業員として働いた著者が、清掃事業の歴史、作業の実際、リサイクル、清掃工場、清掃車の仕組み、安全衛生、災害支援などなどについて記した。さらに小中学生にもわかる平易な表現で、漢字にルビを振り、言い回しにも配慮がうかがえる。著者の大変さとともに、編集者の努力にも注目したい。

いう結論だ。コロナ禍で気がついた。「テレワークのできない仕事」が社会を支えている」。もう二冊
本書を読んでもう二冊。一冊は、このお仕事探検隊シリーズの第一弾、栃木裕『屠畜のお仕事』（解放出版社）。都立芝浦屠場の現場から、仕事、技術、食肉流通、そして差別を伝える。本書でも触れられている水平社宣言。今年に宣言一〇〇年にあたる。栃木は、宣言の「間違った屠畜の記述」を指摘する。表現によって、屠畜への差別をなぞる可能性がある。書評子も宣言を読み直した。

清掃・人権交流会
ごみ清掃の仕事から、社会とのかかわりが見えてくるように工夫されている。本書の特徴は、差別の問題に視点が移っていくことだ。職場への差別手紙をきっかけに、清掃・人権交流会が発足する。フィールドワーク、屠場職場との交流、世界の清掃労働者とも。
著者は自治労東京都本部の役員も勤めた。職場の安全、待遇、社会的活動のためには、清掃事業は、公務員が直営でと

もう一冊は、藤井誠一郎『ごみ収集とまちづくり』（朝日選書）。自治労次代を担う研究者育成制度の修了者。『ごみ収集という仕事』（コモンズ）の次作。藤井は東京新宿清掃事務所清掃車に乗って収集作業を経験した。
評者 菅原敏夫 本誌編集委員